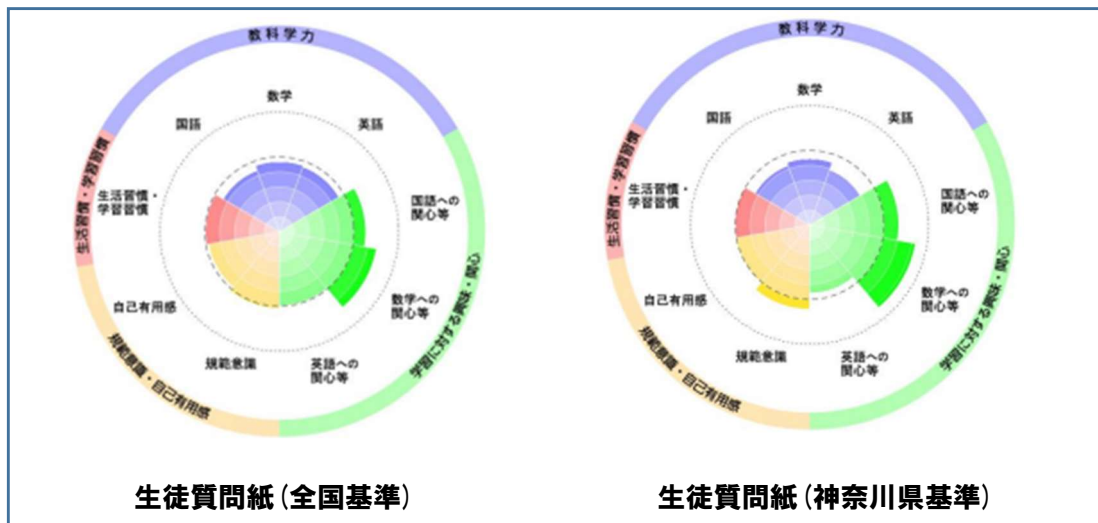


# 令和5年度 全国学力・学習状況調査より



## (1) 生活意識調査

### 【分析】

朝食をしっかりと食べていることや、就寝、起床についても規則正しい生活をしていることがわかる。自分の良さを理解できずに、自身の行動に自信が持てない、自己肯定感の低い生徒が多いことも特徴のひとつである。その反面、優しい生徒が多く人が困っているときに助けてあげようと思える生徒が多い。これについては、地域の特徴である高齢者が多い環境で育ってきたことで自然と育まれたことである。人の役に立ちたいと思っている生徒についても、全国平均を大きく上回っていることがその裏付けとなっている。そのような背景から学校に行くことが楽しいと思える生徒が多く存在している。

学習面では、1日当たりの勉強時間が平日、休日ともに多い。さらに読書する生徒が多く、地道に落ち着いて学習に取り組むことができる姿勢が集団的にあることがわかる。

運動面では、全国と比べても活動時間が多く下回る結果となる。活動的に物事に向かっていくことが苦手であることがわかる。

総括すると、人にやさしい子が多く、地道な活動は大変得意であるが、自らに自信を持ち、精力的に活動することが苦手であることがあげられる。

### 【課題に対する改善の手立て】

豊かな生活の将来を導くためにも、強く逞しい人づくりに励むことが必要である。そのためにも人との関わり方を覚え、さらには周りの人を巻き込む表現力を身につける必要がある。

周りの人と手を取り合いながら、一緒になって問題解決に努めて行く素晴らしさを体感し、さらに人を引っ張るリーダーシップを身につけ、人に頼りにされる楽しさや喜び、やりがいに気付かせることが大切となる。その一環として、自然に触れ、多くの人に触れる活動的なプログラムを用意して、屋外での活動を充実することに努めていきたい。

## (2) 国語

### 【分析】

思考・判断・表現の観点のうち、「読むこと」「話すこと・聞くこと」については、全国・全県の平均に近い結果である。一方、「書くこと」は全国平均よりも8ポイント、下回っている。読み手の立場に立って文を正しく直すことに課題がある。知識・技能の観点のうち、「情報の扱い方に関する事項」については、全国・全県の平均に近い結果である。一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」は、全国を平均10ポイント近く下回っている。語句の使い方や古典などの知識の定着に課題がある。

### 【課題に対する改善の手立て】

国語の学習に興味を持っている生徒は多く、問いかければ自分の考えを伝えることができる生徒が多い。しかし、自分の考えを言語化し、文章にすることが難しく感じている生徒も多い。まずは見本を見ながら構成を真似るなど、段階的に書く力をつけていきたい。古典に関しては最初から苦手意識があるため、導入部分での授業展開の工夫をしていきたい。

## (3) 数学

### 【分析】

領域別で見ると、『データの活動』の分野は、全国平均に近く、神奈川県の前平均と同じ数値であった。一方で、『数と式』、『図形』、『関数』の分野の前平均は全国・神奈川県よりも下であり、その中でも『数と式』における説明問題では、問題文の読解力が低い点が課題となった。また『図形』分野は県前平均よりも12ポイントほど下回っている。特に平面図形の証明問題に対する無答率が高く、説明をすることに対する苦手意識が見られる。

### 【課題に対する改善の手立て】

『数と式』における説明問題では、問題文の読解対策として授業で丁寧に説明する機会を多く設ける。また、平面図形の証明問題については穴埋め形式からはじめ、説明に必要な全体の流れの把握を行ってから自由記述で解答を行うなど、段階的に指導を行う。

## (4) 英語

### 【分析】

英語学習への必要性は感じているが、基礎基本の内容については定着が不十分な傾向が見られる。領域別に見るとまとまった文章を「書くこと」が大きな課題となっている。「聞くこと」については、シンプルな内容については正答率は比較的伸びているものの、まとまりのある文章から答えを導き出す問題については課題がある。「読むこと」「話すこと」について同様の傾向が見られる。

### 【課題に対する改善の手立て】

基礎基本の定着を図るために、文法事項、英単語の復習をさらに行う必要がある。授業では定期的に単語テスト、文法復習テスト等を実施するなどして、英語学習への壁を少しでも取り除きたい。また、「話すこと」については授業の中で会話練習を習慣的に取り入れていく。

また、4領域すべてにおいて、応用力を伸ばすためにさまざまな形で英語に触れる機会を増やしていきたい。